

○議長（古川元規） 竹島貴行議員。

○6番（竹島貴行） 竹島貴行です。私は、今回通告しております3点について質問をさせていただきます。

まず、第1点目として、舟橋会館駐車場等について質問します。

舟橋会館の駐車場ラインは、白線もありますが、赤系統のラインとなっております。なぜこの色のラインが引かれているのか理由が分かりません。お尋ねいたします。

次に、舟橋会館利用者が増えていると感じていますが、駐車している車を多く見るなと感じています。

私自身、車を駐車する際に駐車ラインの幅が狭く、止めにくさを感じています。利用者サービス向上のためにも、駐車ラインの幅を広くすることを要望します。もちろん全体の駐車台数の確保も大切ですが、敷地全体を俯瞰し、必要駐車台数を確保する駐車場レイアウトを検討いただければと考えます。

次に、子育て支援センター横にあるゲートボール場ですが、目的どおり利用されているのでしょうか。私にはあまり利用されているようには見えませんので、ゲートボール場を子どもたちの走り回りやすい芝張りか、臨時駐車スペースに利用できるよう改善できないかと思います。

担当課長に当局の見解をお尋ねします。その上で村長にも考えがありましたら、お聞きします。

2点目の質問として、公共施設トイレの洋式化改修についてお聞きします。

6月議会で同僚議員から公共トイレの洋式化要望が質問されました。この問題は地域住民の直接的な要望であり、私は重要な問題と捉えていますので、重ねて村が正面を向いて事業化することを要望します。

10年ほど前になりますが、住民の方から、公共施設のトイレが和式トイレであり、洋式トイレが定着している現在、トイレが使いづらいという声を聞き、役場職員とともにトイレの実情を確認し、2代前の故金森村長に、公共トイレの洋式化を図ることは住民目線で必要なことだということを質疑提言し、村長からは、財政が厳しい状況であるが、前向きに取り組むと直接回答をいただきました。また、当時の総務課長も、予備費を活用して取り組みますと話をいただきました。

当時は村が約束してくれたと考えていましたが、時間もかなり経過していますので、現在、公共施設トイレの洋式化の改修がどこまでいっているのか、担当課長にお聞きし

ます。

また、この話は万博会場のような1か所3億円のトイレを要望するものではなく、きれいで使いやすいトイレを整備することで、公共施設や公園の利用促進につながり、村のイメージアップにも直結しますので、住民サービスとしての見える化にもなると考え、要望するものであります。

村長に必要な事業と認識いただき、早急に取り組むを要望しますが、村長の見解をお聞きます。

3つ目の質問は、防災への取組についてお聞きます。

9月1日は「防災の日」として、県下各地で防災訓練がなされました。村長は防災について強い関心を持たれ、多くの企業や団体と防災連携協定を結んでこられました。また、ハザードマップの3D化にも取り組むことを表明されており、防災に対する村長の評価を上げることにつながっていると思っています。今議会の初日で議案提案理由説明でも細かく防災について触れられ、村長の防災に対する強い思いを知り、うれしく感じた次第であります。

私は、令和5年12月議会で防災に関する一般質問のため、防災視野を広げる目的で住民の方たちと防災士の資格を取りました。その翌月、元旦に能登半島地震が発生し、混乱の中、講習で得た知識が役立ったと考えています。

このときの震災被害は甚大でしたが、当時の岸田総理は、万博開催を遅らせ、能登半島地震の復興を優先すべきという意見をはねのけ、万博と震災の両立にこだわり、結果は周知のとおりです。まさに政治の信頼が失墜したといっても過言ではないと思います。

そこで、いつ来るか分からない災害から人を守る基本は、村民個々が自らを守ることだと考え、村長の防災メニューに村民の防災意識醸成を加えていただきたいと思います。非常時に個々が自分を守る行動ができれば、人的被害を少なく抑えられると考えます。災害状況に応じ、どこへ避難するか。それぞれに応じた避難ルートを盛り込んだ避難計画を村民に作成してもらえば、防災意識の向上につながり、個人で避難計画が作成できない人には、村が寄り添い、避難計画の作成を手伝う。そして、住民の計画を村が情報として共有することができれば、いち早く災害時の状況把握手段に活用できると考えます。

この取組は大変な作業のように見えますが、住民ファーストの観点から、村民の最も

身近な村として取り組んでいくことは、事業として十分に価値があると思います。

そして、日頃から防災のP D C Aサイクルを回していくことが村の防災力強化につながり、村民の安心・安全が図られると考えます。村長の見解をお尋ねいたします。

○議長（古川元規） 山崎総務課長。

○総務課長（山崎貴史） 6 番竹島議員の、舟橋会館の駐車場についての質問にお答えいたします。

舟橋会館の駐車場は、子育て支援センター「ぶらんこ」の駐車場と地面がつながっておりますが、施設の利用者が分かりやすいように、舟橋会館の駐車場は白色のラインを引き、子育て支援センターの駐車場には赤色のラインを引き、ヒヨコの絵柄マークもつけております。

また、駐車スペースにつきましては、舟橋会館を利用される方が余裕を持って駐車できるように、駐車可能台数も勘案しつつ、ラインの間隔を広げるなど、改善を検討してまいります。

最後に、以前ゲートボール場として利用されていたスペースにつきましては、現在子育て支援センターの建物の北側に残っておりますが、議員からご提案いただいたとおり、例えば、子どもたちが遊ぶスペースや利用者の駐車場として利活用できないか、施設利用者のご意見などを踏まえて検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（古川元規） 渡辺村長。

○村長（渡辺 光） 6 番竹島議員の、公共施設のトイレの洋式化改修について、見解を述べさせていただきます。

冒頭に、現在、村内公共施設内における大便器の洋式化率は、4 1 基分のうち 2 1 基、約 5 1 %となっております。そのうち、施設ごと並びに男女別において一基も整備がなされていない箇所は、舟橋駅に併設されているトイレ、こちらは男女ともに。京坪川河川公園のトイレ、こちらも男女。舟橋会館前のトイレ、こちらは女子トイレのみの計 5 か所となっております。

昨年度までは順次改修が進められてきた経緯がありましたが、本年度は改修を実施しておりません。

先ほど申し上げました未着手の箇所全ては、スペース的な問題から起因する、便器の交換作業では対応し切れない点と、併設してあります多目的トイレの有無という観点か

ら、先送りとなっております。舟橋会館前女子トイレは、スペース的な問題と舟橋会館内に洋式トイレがあることから、見送りをしておったということであります。

踏まえて、議員ご指摘のとおり、トイレを整備することで施設の利用促進や利用者の満足度につながる部分もあろうかと感じておりますので、改めて予算状況を勘案しながら優先度をつけて整備を図りたいと考えております。

今ほど申し上げたとおり、ご認識いただきたい点としては、スペース的に便器の交換のみでは対応が難しいということ、そして大便器の設置個数も減少せざるを得ないということをご承知おきいただきたいとまずお願いして、答弁とさせていただきます。

続いて、防災への取組についての見解をお答えさせていただきます。

ご指摘のとおり、個々人が自身を守るという防災意識の醸成については、懸案事項の一つとして認識をしております。そのため、各地自治会の各班においても、お一人は防災士の資格を取得していただきたいという思いから、昨年度より県の補助に上乗せする形で防災士資格取得の補助を行ってまいりました。

しかしながら、一昨年に発生した大雨による白岩川の堤防の決壊や昨年の能登半島地震などの災害は、時間とともに記憶が薄れ、防災意識が薄れていくのは致し方がないものだろうと思いますが、こちらについては、引き続き防災士の資格取得の推進等を行っていきたいと考えております。

あわせて、個人の避難計画についてですが、最善策は各世帯が様々な災害を想定し計画の策定を行うことではありますが、そこまでに至らずとも、イメージをしていくことは重要であると考えております。

本年度は、都市空間情報デジタル基盤構築事業を委託し、特に舟橋村として注視すべき白岩川の堤防越水、破堤に対しての具体的なイメージを持つことが可能となる見通しです。

もってして、来年度、まずは各自治会に向けて避難計画の策定についての支援を行い、それ以降に個別支援という順序立てで、ご指摘のとおり、個々人の避難計画の策定、そしてその機運の醸成を図ってまいりたいと考えております。

村民の皆様の生命や財産を守ることが公としての役目の一つでもありますので、議員の皆様にもその点お力添えを賜りながら、全村民の皆様方に対して取組を進めていきたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、見解をお答えさせていただきました。

○議長（古川元規） 竹島貴行議員。

○6番（竹島貴行） ただいま答弁いただきましたこと、お礼申し上げます。

まず、防災のほうから。ちょっと引っかかった点があります。

今村長の答弁いただいた内容につきましては、本当、上から情報をどんどん、どんどん流すというふうな感じに聞こえました。しかし、東北での災害のときに言われたことは、「てんでんこ」という言葉でありました。個人個人が周りを気にせず、それぞれ逃げなさいという、そういうことだったと思います。

村民の皆さんは、それぞれ状況とか、その背景が違います。ですから、それぞれに応じて自分が、じゃ、こういうときにどこへ逃げるんだという、そういう思いを持っておかれることは、私は大事だと思います。

自ら自分を守るという、そういう認識を村民の皆さんに持っていただくということ、これを村が手助けするということであります。

いろいろその仕組みを村長につくっていただいておりますが、基本は人、個人だと私は考えております。そこをまたご配慮、よろしくお願いいたします。

次に、トイレにつきまして、洋式化実施率が51%だというふうにおっしゃっていただきました。そこまで進んでいるとは私は思いもしませんでした。トイレというのは非常に大事な空間というか、村においては場所であります。

私も長年この建築というものについて携わってきておりまして、いろんなことを経験してきました。

ただ、私が今この年になって思うことは、建築というのは非常に単純なものであると。言葉は悪いんですが、簡単に切って、貼ってという、そういう世界です。

ですから、公園のトイレにおきまして、スペースがないと。洋式化するスペースが限られているという、そういうことの認識のように聞こえましたが、私は、それなら思い切ってそのスペースを広げれば、枠を取っ払って、物は小さいですから、必要であるという観点からすれば、そういうことも考えていただいてもいいんじゃないかなというふうに思います。

給水排水の設備はもうそこに来ていますから、あとは器だけの問題になるのかなというふうに思います。

これも、舟橋村は非常にトイレがすごいねと言われれば、舟橋村のイメージアップにもつながっていくというふうに考えております。

公園も使いやすい、施設も使いやすいというふうなことにもつながっていくんじゃないかなというふうに思いますので、ご検討のほうをよろしくお願いいたします。